

JKF 競技規定に準じた学空連申し合わせ事項

平成 28 年 7 月 2 日

頁	JKF 空手競技規定	学空連申し合わせ事項
P.1	<p>第 1 条：組手競技場</p> <p>8. コーチは、安全域外に座る。記録席に向かい、それぞれコートサイドにつく。</p>	<p>第 1 条：組手競技場</p> <p>8. 監督は、安全域外に座る。記録席に向かい、それぞれコートサイドにつく。</p>
P.2	<p>第 2 条：規定の服装</p> <p>審判員</p> <p>2. 半袖の白 Y シャツ。 ネクタイピンなしで規定のネクタイ着用。</p> <p>競技者</p> <p>1. 競技者は、白でストライプ、ふち飾り、又は名前の刺繍のない白の空手着を着用すること。自国の紋章又は国旗だけはつけてもよい。これらは上着の左胸に付けるものとし、その大きさは全体で 12 cm×8 cm を超えてはならない。製造業者がはじめからつけたラベルだけは、空手着に表示されてもよい。さらに組織委員会が交付したゼッケン番号を背中に付ける。競技者の一人は赤帯、もう一人は青帯を着用しなければならない。赤・青帯の幅を約 5 cm とし、長さは結び目の両端から 15 cm 程残る長さとする。帯は無地で赤及び青とし、個人の刺繍又は業者以外の宣伝・マークのないものとする。</p> <p>2. 上記 1 にもかかわらず、理事会はスポンサーの特別なラベル又は商標の表示を認めることが出来る。</p> <p>3. 帯でウエストを締めたときの上衣の長さは、腰を覆うほどの長さとし、太腿の 4 分の 3 までとする。女子の場合、空手着の下に白無地の T シャツを着用してもよい。空手着の紐は結ぶこと。紐なしの空手着は不可。</p> <p>4. 上衣の袖の長さは手首までとし、前腕の中段より短くてはならない。上着の袖をまくってはいけない。</p>	<p>第 2 条：規定の服装</p> <p>審判員</p> <p>※JKF に準ずる</p> <p>ネクタイピンなしで学空連規定のネクタイ着用。</p> <p>競技者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技者は白無地で学連マーク付きの空手衣を着用しなければならない。競技者は、空手衣の左胸に、校名または校章を明示しなければならない。 ・組手競技においては、学連マーク付きの帯の上に赤または青ひもを締めることとする。 ※全日本学連主催の組手競技においては、黒帯を着用して出場する。 ・形競技においては、競技者の一方は赤帯、もう一方は青帯を着用しなければならない。 (学連マーク付き) ・女子の場合、空手衣の下に白無地の T シャツを着用しなければならない。 (※ワンポイント不可 (見てみえ空手着)) ・上衣の袖の幅は、腕の側部より 8 cm～15 cm とする。

<p>P.3</p>	<p>5. ズボンの長さは、少なくとも下肢の3分の2を覆うほどの長さとし、踝がかくれてはならない。また、裾をまくり上げてはならない。</p> <p>6. 競技者は髪の毛を清潔に保ち、円滑な競技の妨げとならない長さにする。ハチマキは認められない。主審が競技者の髪が長すぎるか又は不清潔であるとみなした場合、競技者の参加を認めない。ヘアクリップ、金属製のヘアピン使用は禁止される。リボン、ビーズ、その他の髪飾りも禁止される。目立たないゴムバンドで髪を束ねるものは認められる。</p> <p>8. 競技者は爪を短くし、相手に負傷を負わせるような金属又は他のものを身につけてはならない。金属製歯列矯正器の使用は、主審及び大会ドクターの許可を得なければならない。競技者は、如何なる負傷にも全責任を負う。</p> <p>9. 必須安全具は、下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全空連公認拳サポーター（一方の競技者が赤、他方が青） 2. マウスピース 3. 全空連公認ボディプロテクター（全員）及び女子の胸当て 4. 全空連公認シンガード（一方の競技者が赤、他方が青） 5. 全空連公認インステップガード（一方の競技者が赤、他方が青） 6. カデットは上記に加え、全空連公認メンホーを使用のこと。（全空連では各競技メンホーを使用することもある）セーフティカップは必須ではないが、使用する場合は全空連公認のものであること。 <p>10. 眼鏡は禁止される。ソフトコンタクトレンズは、競技者自身の責任において使用してもよい。</p> <p>11. 規定以外の服装、又は装具の着用を禁止する。</p> <p>12. 全ての安全具は全空連公認のものでなければならない。</p>	<p>・ズボンの幅は、足の側部より8 cm～15 cmとする。（シンガード未装着時の測定とする）</p> <p>※派手な色染めは認めない</p> <p>・競技開始前の服装チェック時に、規定違反があり、1分間に正せない場合は反則とする。</p> <p>安全具</p> <p>・全日本学生空手道連盟によって承認された空手衣および安全具を着用しなければならない。</p> <p>・学連公認拳サポーター（赤・青）</p> <p>・マウスピース（無色透明）</p> <p>・学連公認ボディプロテクター</p> <p>・学連公認シンガード及びインステップガード（赤・青）</p> <p>※全日本学連主催大会では着用を義務付ける</p> <p>・セーフティカップ（男子は必ず着用）</p> <p>※メンホーは使用しない</p> <p>・空手衣および安全具はいずれも学空連指定マーク入りおよび大会委員会の定めたものとし、それ以外は使用してはならない。</p>
------------	--	---

	<p>13. 監査は、競技前に競技者が公認安全具を着用しているかどうかを確認する義務を負う。(国内大会の場合、全空連公認安全具を拒否してはならない)</p> <p>14. 負傷による包帯、パディング、又はサポーターの使用は、大会ドクターの診断に従い、主審の許可を得なければならない。</p> <p>コーチ</p> <p>1. コーチは、競技の間、常に所属団体の公式トラックスーツを着用し、公式ライセンスを表示する。但し、全空連公式大会の決勝戦を除く。公式大会の決勝戦では、男性コーチはダークスーツ、シャツ、ネクタイ着用。女性コーチはワンピース又はパンツスーツ、又はジャケットとダークカラーのスカートを着用のこと。女性コーチの宗教上のヘッドウェアは、全空連公認のものであれば着用可。</p>	<p>・1審・4審は、競技前に競技者が公認安全具を着用しているかどうかを確認する義務を負う。</p> <p>※サポーター・テーピングは、白または肌色で、柔らかい布製のものに限る。</p> <p>監督は競技中を通して校名、校章を表示した空手衣を着用し左腕に学空連指定の監督の腕章を付けること。但し、腕章の代わりに ID カードを使用する場合もある。</p> <p>※全日本学連主催大会では、競技の間、男女ともダークスーツ、シャツ、ネクタイを着用する。女子はヒールのある靴は禁止とする。</p>
<p>P.4</p>	<p>第3条：組手競技の構成</p> <p>1. 個人競技は更に年齢、体重別に分けられる。競技は体重別に行われる。</p> <p>3. 名前が呼び出された時、不在であった個人競技者又はチームは、その競技種目への出場資格を失う(棄権)。団体戦におけるその場合の得点は、相手に8ポイントを与え、得点を8-0とする。</p> <p>4. 男子団体戦はチーム7名で構成され、1回戦5名で戦う。女子団体戦は、4名で構成され、1回戦3名で戦う。</p> <p>8. 団体戦で1人の競技者が反則又は失格により負けた場合、競技者の得点は0となり、相手チームに8ポイントを与え得点を8-0とする。</p> <p>説明</p> <p>Ⅲ. 競技前のチーム整列の際は、実際出場する選手のみとする。出場しない選手及びコーチは含まれず、別に準備された席につくものとする。</p>	<p>第3条：組手競技の構成</p> <p>・個人競技は更に体重別、無差別に分けられる。</p> <p>・棄権の場合、2分間6ポイント差のときは6-0、3分間8ポイント差のときは8-0とする。</p> <p>・団体競技の登録選手は、男子10名以内女子6名以内とし、1つの回戦を男子は5名、女子は3名で戦う。</p> <p>・反則又は失格の場合、2分間6ポイント差のときは6-0、3分間8ポイント差のときは8-0とする。</p> <p>競技前のチーム整列の際は、実際出場する選手と監督のみとする。</p> <p>※正面に向って監督・先鋒・次鋒・中堅・副将・大将の順に並ぶ。</p> <p>※監督又は代理監督が付くことが出来ない場合出場は認められない。</p> <p>※個人戦では、ベスト16から監督が付くことができる。(地方の大会において申し合わせ事項によりこの限りではない)</p>

	<p>IV. 団体戦出場に必要なエントリー数は、男子の場合少なくとも3名、女子は2名。この数に満たない場合は、棄権となる。</p>	<p>・団体競技において参加チームは、チームメンバーが規定数の半数より多い場合に限り出場を許可される。その場合、オーダーは先鋒から順番に並べなければならない。</p> <p>★健康診断書は、大学の保健管理センター等で4月に検診したもののコピーでも良い。 (全日本学連主催大会等も1年間はコピーで可)</p>
P.5	<p>第4条：審判団</p> <p>1. 各競技の審判団は、主審1名、副審4名、監査1名より構成される。</p>	<p>第4条：審判団</p> <p>・監査役は当面の間は審判と別枠で人選する。</p>
	<p>第5条：競技時間</p> <p>1. 組手競技の競技時間は、成人男子が3分(団体戦&個人戦)、成人女子は2分、カデット及びジュニアは2分と定める。</p>	<p>第5条：競技時間</p> <p>・競技時間は2分間、但し全国大会(個人戦・団体戦)では男子のみベスト8より3分間とする。</p> <p>・女子はすべて2分間とする。</p> <p>※地方の大会においては申し合わせ事項によりこの限りではない。</p>
P.6	<p>第6条：得点</p> <p>1本(3ポイント)・・・上段蹴り。投げられた、又は自ら倒れた相手に決めた技。</p> <p>技あり(2ポイント)・・・中段蹴り。</p> <p>有効(1ポイント)・・・中段又は上段突き。</p> <p>中段又は上段打ち。</p>	<p>第6条：得点</p> <p>JKF シニアルールを適用する。</p>
P.7	<p>説明</p> <p>IX. 「距離」は、技があたる、又は止まる位置にも関係する。顔面、頭部、頸部へのスキントッチ又は5cmの距離への突き又は蹴りは、正確な距離といえる。</p> <p>カデット&ジュニア大会では、頭部、顔面又は頸部(又は全空連公認メンバー)へのコンタクトは禁止とする。上段蹴りで非常に軽い接触(スキントッチ)は許される。又、得点距離を10cmとする。</p>	
P.8	<p>第7条：判定基準</p> <p>組手競技の勝敗は、8ポイント差が生じた場合、又は時間終了の際に得点の多い競技者、又は判定により、又は相手に反則、失格、棄権が課せられることにより決められる。</p>	<p>第7条：判定基準</p> <p>組手競技の勝敗は、2分間の場合6ポイント差3分間の場合8ポイント差が生じた場合、又は時間終了の際に得点の多い競技者、又は判定により、又は相手に反則、失格、棄権が課せられることにより決められる。</p>

P.9	<p>1. 引き分けは、個人戦にはない。団体戦で同点又は無得点で競技終了となった場合、主審は引き分けを宣言する。</p> <p>2. 個人戦において、競技終了時点で無得点又は同点の場合、副審4名と主審の最終判定により勝者を決定する。</p> <p>3. 勝利者数の多いチームの勝利となる。勝利者数が2チームとも同数である場合、勝ち競技及び負け競技の両方を考慮し、最も得点の多いチームを勝者とする。得点の差は最大で8ポイントとする。</p> <p>5. 団体戦において、チームの勝利者数又はポイント数が十分である場合、競技終了となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・得点の差は2分間の場合最大6ポイント、3分間の場合は最大8ポイントとする。 ・団体戦において、双方又は一方のチームが初戦である場合は、出場選手全員が競技する。以降は勝敗が決定した時点で競技終了となる。 <p>※初戦に不戦勝は含まない</p>
P.10	<p>第8条：禁止行為 説明</p> <p>II. 顔面への接触—シニア シニア大会の場合、顔面、頭部、頸部への接触が相手を負傷させるものではなく、コントロールされた軽いものであれば許される(但し、喉は除く)。 審判が、相手の勝利の機会を減少させるほどではないが過度の接触とみなした場合、忠告を課す。同じ状況での2度目の接触は警告とし、更なる違反は、反則注意とする。その後の更なる接触には、相手の勝利に影響を及ぼす程度でなくとも、反則を科す。</p> <p>III. 顔面への接触—カデット&ジュニア カデット&ジュニア大会の場合、頭部、顔面、頸部(又は、全空連公認メンホー)への手技による接触は禁止される。負傷の原因が自己の責任によるもの(無防備)でない限り、コンタクトが軽微であっても触れた場合は、上記II項目通りウォーニング又はペナルティが科せられる。スキンタッチ程度の上段蹴りは、得点となり得る。スキンタッチ以上の接触には、ウォーニング又はペナルティを科す。(無防備の場合を除く)</p>	<p>第8条：禁止行為</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔面への接触についてはII. シニアを適用する。 <p>※(大きな事故や怪我防止も含め現行通り当たったと認めた技は取らない)</p>

<p>P.14</p>	<p>第 10 条：競技における負傷及び事故</p> <p>7. 倒れたり、投げられたり、又はノックダウンされ、10 秒以内に立ち上がることができなかった競技者は、競技続行が不可能とみなされ、自動的にその大会期間中、全ての組手競技への出場が不可能となる。</p> <p>倒れた、又はノックダウンされた競技者がすぐに立ち上がることが出来なかった場合、主審は笛を吹くことにより時計係に 10 秒カウントを促し、手を挙げ 5 項目に記載されている通り大会ドクターを呼ぶ。主審が腕をあげた時、時計係は時計を止める。10 秒カウントが開始された場合、大会ドクターに競技者の診断を依頼する。10 秒カウントでの競技者の診断は、コート内でも可。</p>	<p>第 10 条：競技における負傷及び事故</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記を適用する。
<p>P.15</p>	<p>説明</p> <p>II. 競技者が～必然的に勝者の退場となる。</p> <p>VI. 「10 秒ルール」を適用する場合、担当指名された時計係が計測する。7 秒の時点で予告し、10 秒経過の最終ベルを鳴らす。時計係は、主審の合図があった場合のみ計時し、競技者が立ち上がり主審が腕を上げた時点で時計を止める。</p> <p>VIII. 団体戦においてチームメンバーの 1 人が棄権した場合、又は反則、失格となった場合、相手に 8 ポイントを与え、得点を 8-0 とする。</p>	<p>競技者が～必然的に勝者の退場となる。</p> <p>相手に対する C1 反則により 2 回反則負けした競技者も、その後の競技に出場できない。</p> <p>※反則勝ち（反則負け）した競技者に対しては、その都度空手衣の左腕に赤テープ（青テープ）を巻く。尚これらのテープを故意に外した競技者は失格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記を適用する。 ・ 2 分間の場合 6 ポイントを与える。 ・ 3 分間の場合 8 ポイントを与える。 <p>※ドクターストップで棄権した競技者は、以後の競技に出場することはできない。</p>

	<p>第 11 条 : 異議申し立て</p>	<p>第 11 条 : 異議申し立て 現行通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> だれも判定について、直接 監査、主審、副審に異議申し立てをすることはできない。 審判員の判定が競技規定に違反すると思われる場合、登録監督のみが直ちに監査に対して、挙手により異議申し立てが出来る。 当該競技終了後の異議申し立ては、如何なる理由があろうとも一切認められない。 <p>※異議申し立ては次の選手の名前が呼ばれるまでとし、最後の選手の場合は、副審が集合するまでとする。</p> <p>※監督がつくことの出来ない個人戦の回戦においては、ルール違反の場合に限り、次の回戦が開始する前まで、ビデオ等で明確な提示があれば、監督を通しての異議申し立てを認める。</p>
<p>P.19</p>	<p>第 12 条 : 権限および職務 副審</p> <ol style="list-style-type: none"> 得点、及び場外を合図する。 主審が合図したウォーニング又はペナルティーに対し、自分の意見を合図する。 判断を下す際、意見を述べる権限を行使する。 <p>監査 監査は競技を監督し、コート主任を助ける。 主審、及び副審の判断が競技規定に反する場合、監査は即赤旗をあげ笛を吹く。コート主任は、主審に競技中止を指示し、不正を正す。 各競技前、監査は競技者が認定された安全具を身に着けているかどうかを確認する。</p>	<p>第 12 条 : 権限および職務</p> <p>※JKF に準ずる</p> <p>※1 審・4 審は、競技前に競技者が認定された安全具を身に着けているかどうかを確認する。</p> <p>※JKF に準ずる</p> <p>※1 審・4 審の職務とする</p>

P.22	<p>[形競技]</p> <p>第3条：形競技の構成</p> <p>2. 敗者復活戦を伴う勝ち抜き戦の形式が適用される。</p> <p>5. 各競技で異なる形を演武しなければならない。一度演武された形を再度演武してはならない。</p>	<p>[形競技]</p> <p>※大会要項により、予選に於いて指定形を演武し得点方式・決勝トーナメントに於いて得意形を演武しフラッグ方式で行う。</p> <p>その際、予選で同点になり決定戦でしようした形は、決勝トーナメントで再度演武することが出来る。</p>

マナーの徹底

- 1) コート内へは、予備コンタクトレンズとタオルのみ可。
- 2) 試合中は、次に出場する選手以外は、正座又はあぐらで座る。
- 3) コートで円陣を組まない。また、立って次の選手を激励する行為は慎む。
- 4) 最初と最後に、コート外とライン上で相手に合わせて礼をする。(計4回)
- 5) 肩より上のガッツポーズは禁止。
- 6) 当てた選手は、相手に頭を下げる。
- 7) 閉会式にも出来る限り全出場選手が整列するよう努力する。